

千葉・西根遺跡

にしね
である。奈良・平安時代の流路から木製形代（人形・馬形）や人名の記載された墨書き器が出土している。

木簡は、一九九九年の確認調査時にテストピットから一点出土したもので、明確な遺構に伴うものではない。

1 所在地 千葉県印西市戸神字棚田

2 調査期間 一九九九年（平11）七月～二〇〇〇年一〇月

3 発掘機関 財千葉県文化財センター

4 調査担当者 横原弘二・沖松信隆ほか

5 遺跡の種類 遺物包藏地・自然流路

6 遺跡の年代 繩文時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

西根遺跡は、印旛沼に注ぐ神崎川の支流である戸神川に開析された標高四m前後の谷津に立地する。区画整理事業に関わる県道建設

に伴い、一九九九年から二〇〇〇年にかけて三次にわ

たって調査を実施した。

繩文時代後期から近世にかけての複合遺跡で、特に

繩文時代後期を主体として

いる。検出された遺構は、

繩文時代後期から近世に至る流路と古墳時代前期の堰

8 木簡の釈文・内容



(118) × 33 × 8 019

下端と側面の一部が欠損している。表裏とも平坦で、上部が厚く、下部が極端に薄い作りとなつてお、薄い部分の厚さは二mm程度しかない。頭部近くに小孔が一ヵ所穿たれている。樹種はヒノキである。墨書きは判読することができなかつた。木簡の年代は、遺構に伴わないので明確ではないが、奈良時代から中世にかけての所産であろう。

9 関係文献

（財）千葉県文化財センター『印西市西根遺跡』（二〇〇五年）

（栗田則久）



（佐倉）